

第14回 小児がん拠点病院 連絡協議会 看護部会

2025年1月23日(木)
国立成育医療研究センター
看護部長 嶋田せつ子

1

令和6年度 第6回目発表(2024年5月30日)

1. 「AYA世代の看護」 静岡県立こども病院
2. 「小児がん看護教育」 兵庫県立こども病院
3. 「看護研究の支援」 三重大学医学部附属病院

2

令和6年度の発表後のアンケート

アンケートの主旨；発表を聞いて自施設で取り組んだこと、感想を含めて業務改革を実施していること等

1. AYA世代の看護（静岡県立こども病院）

- AYA世代の入院環境整備
- AYA世代に関する院外活動がとても参考になった
- 病棟内で「AYAの会」を始めたので、AYA世代サポートについて参考にさせてもらった
- 妊孕性温存に関する意思決定には、医療者側に患者・家族に対して情報提供できる体制・知識が求められることがわかった

3

令和6年度の発表後のアンケート

2. 小児がん看護教育（兵庫県立こども病院）

- 自施設では小児がん看護教育体制が十分ではなく、自主的な学びができていないため、発表内容が大変参考になった
- 小児がん看護教育の研修やフローが大変参考になったので、今後の教育に活かしたい
- 「自己のキャリアプランとともに考える」という視点は重要であり、そのような視点のもと人材育成に努めたい

4

令和6年度の発表後のアンケート

3. 看護研究の支援（三重大学医学部附属病院）

- 看護研究推進のためのヒントを得ることができた
- 組織的な看護研究支援の必要性を感じた
- 院内看護研究を研修として位置付けていたが、位置付けを見直す必要があると感じた
- 「日頃から看護実践の意図や意味づけを言語化する土壌」については大事だと思うので、伝え続けている

第一部

1. 交流視察報告会

2. 交流視察アンケート結果報告

3. 2025年度交流視察に関する意見交換

4. 2025年度以降看護部会の発表順と当番(案)

令和6年度 交流視察報告会(別紙1~4)

発表7分質疑応答5分

1. 国立成育医療研究センター
2. 埼玉県立小児医療センター
3. 神奈川県立こども医療センター
4. 東北大学病院

7

交流視察アンケート結果報告:参加施設側-1

＜参加施設側＞

1.実施期間について(2024年度:7~10月)

- 6~12月など期間を長く設定した方が調整しやすい

2.視察日数について(2024年度:1日)

- 妥当である
- 事前に質問内容を送っていたため、1日の視察で十分学ぶことができた

8

交流視察アンケート結果報告：参加施設側-2

＜参加施設側＞

3.対象者・人数について(2024年度:2～3名程度、看護部長が推薦する管理職とこれらに相当する者)

- ・ 管理者とスタッフ双方の視点での学びが得られた
- ・ 人数は多すぎず、少なすぎず適切であった

4.改善点について

- ・ 視察時期や施設を早めに決定し、準備に臨む
- ・ 視察期間を7～10月→6～12月に拡大する

交流視察アンケート結果報告：受け入れ施設側

＜受け入れ施設側＞

1.工夫したことについて

- ・ 学びたい内容に合わせてスケジュールを考えた
- ・ 学びたいことに合わせてスタッフ配置、他部門連携を考えた
- ・ 自施設ならではの取り組みを紹介するようにした

2.困ったこと

- ・ 準備期間が短かった

3.その他

- ・ 小児がん看護の質向上につながるよい機会であった
- ・ 引き続き他施設との交流機会があるとよい

2025年度交流視察開催に関する意見交換

1. 視察期間
2. 視察日数
3. 視察人数
4. 視察対象者
5. その他

2025年度以降看護部会の発表順と当番(案)

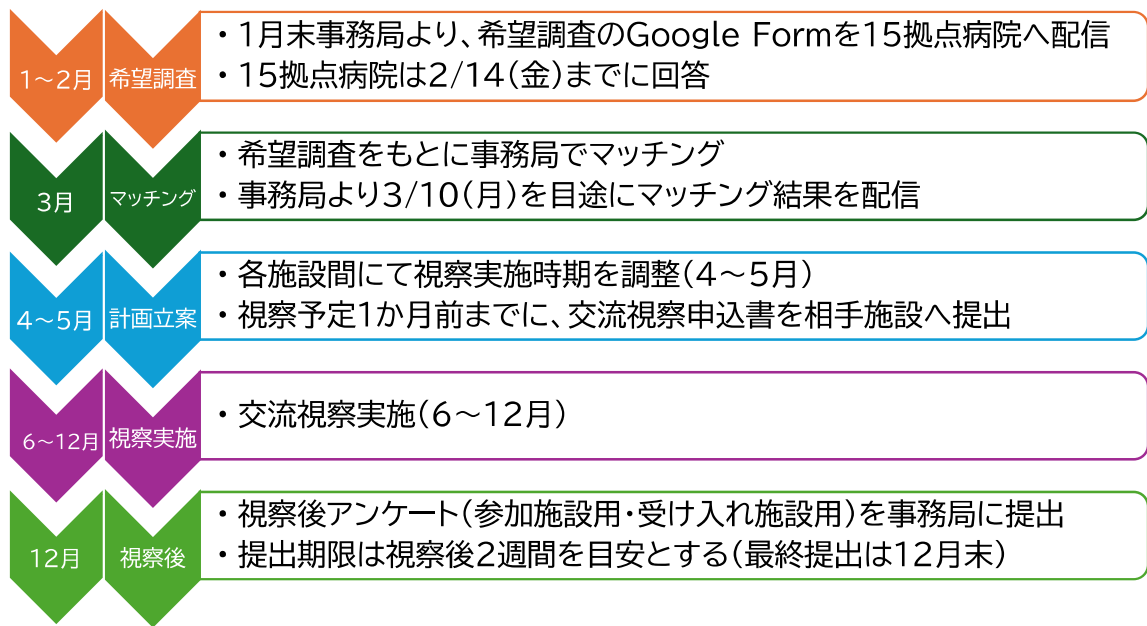
開催年度	発表順番1	発表順番2	発表順番3	発表順番4	司会	座長
2024年度 後期	成育医療	埼玉県立	神奈川県立	東北大学	成育医療	成育医療
2025年度 前期	九州大学	大阪市立	京都大学	兵庫県立	成育医療	京都府立
2025年度 後期	三重大学	北海道大学	都立小児	静岡県立	成育医療	広島大学
2026年度 前期	名古屋大学	広島大学	京都府立		成育医療	神奈川県立

2026年度後期以降の当番(座長)順

東北大学→兵庫県立→三重大学→静岡県立→京都大学→名古屋大学→都立小児→北海道大学→九州大学→大阪市立

※順番は状況によって変更する可能性があることをご承知おきください。

小児がん拠点病院交流視察フロー



希望調査(Google Form)

- ・ 交流視察への参加希望
- ・ 視察の受け入れ可否
- ・ 視察希望について
 - 1) 病院の種類
 - 2) 病院までの距離
 - 3) 病院名

※上記内容をGoogle Formにて配信するので、回答をお願いします。視察先については希望に添えない場合もあることをご了承ください。

交流視察申込書(案):

小児がん拠点病院看護部会交流視察申込書(案)			
			記載日 年 月 日
施設名			
視察先の施設名			
参加者	氏名	役職	資格(専門または認定など)
1			
2			
3			
4			
視察期間: 2025年6月～12月の期間			
第1希望日			
第2希望日			
第3希望日			
学びたいこと			

第二部(看護部長会)

- 1. 各施設からの議題**
- 2. 今後の看護部長会運営について**
- 3. その他**

次回 第15回看護部会開催予定

2025年5月29日(木) 13:15～15:00

第一部 交流視察の発表会 (75分)
看護師長が輪番制で座長を担当
座長:京都府立医科大学付属病院

第二部 看護部長会(30分)

小児がん拠点病院看護部会交流視察

～ 広島大学病院 ～



2025年1月23日(木)

国立成育医療研究センター

丸山京美・古尾谷侑奈・鋸持瞳・砂川香月

1

視察概要

<視察日時> 2024年9月9日(月)

<視察参加者>

4名(看護師長2名、副看護師長2名)

<視察目的> 小児がん看護の質の向上、均てん化

<視察場所>

がん治療センター、がん相談支援センター、小児科外来
小児病棟、先進治療病棟

2

がん治療センター

- 外来化学療法実施件数：約1.3万件/年
- 小児患者は5 枠/日（2日/週） 約30～35件/年
- 併設されている薬剤部でミキシングしている
- がん化学療法看護認定看護師の配置
- 院内認定の化学療法看護師の配置
- 小児科外来、がん治療センターどちらも担当できる看護師を育成し、フォローしている

がん相談支援センター

- 成人がん部門・AYAがん部門・小児がん部門に分かれており、がん相談員、看護師、MSWが配置されている
がん看護専門看護師、小児専門看護師が専従しており、専門性の高い支援が行われている
- がん患者指導料の算定に力を入れている
- 中国四国地方の小児がん拠点病院は広島大学病院のみであり、広島大学病院が中心となり相談業務や事例検討会を行っている

がん相談支援センター (AYA世代がん部門)

- 電子カルテのシステムを用いて、AYA世代患者の全症例をがん看護専門看護師がスクリーニングし、支援を提供している
- スクリーニング結果をもとに、カンファレンスの実施、病棟への情報提供をしている
- 患者本人に、正しい情報収集方法を教育している

がん相談支援センター (がん患者指導管理料)

- がん患者指導管理料の算定
イ：849件/年 ロ：411件/年 (2023年)
成人を中心に算定している
- 指導料算定件数を増やせるよう人員を配置している
- カルテに指導管理料算定対象者であることを記載し情報共有している

小児病棟・先進治療病棟 (病棟概要)

- 小児入院管理料2を算定 40床
- 病棟内に院内学級があるため、治療を受けながら学習しやすい環境がある
- 付き添いが多く、付き添い食の提供や自転車貸し出しサービスがある
- 遠方の家族は、ファミリーハウスを利用できる
- 造血幹細胞移植は先進治療病棟で行われるため、小児病棟と先進治療病棟が連携して支援をしている

小児病棟・先進治療病棟 (スタッフ教育)

- 広島大学看護実践センターと連携して教育
「小児看護に関する専門研修」「小児の見方と一時救命処置」
- 院内資格認定制度による人材育成
種類：輸液管理指導者、輸血療法看護師、がん化学療法看護師
教育体制：講義・筆記試験の後に、病棟実地指導者が実技をチェック
- 先進治療病棟では、造血細胞移植看護ラダーを作成・活用して教育

視察から見えてきた課題 (実践)

- AYA世代への支援体制の充実
スクリーニングシートを作成・活用し、本人との面談実施などの体制整備に取り組んでいきたい
- がん患者指導管理料算定に向けた体制づくり

視察から見えてきた課題 (教育)

- 院内認定制度の検討
より安全な化学療法や輸血の実施につなげる
- 教育プログラムの整備
造血幹細胞移植に関する教育ラダー、外来化学療法室業務チェックリストの作成・活用を進める

広島大学病院のみなさま
温かく受け入れてくださりありがとうございました。
大変良い機会となりました。

ご清聴ありがとうございました。



第14回小児がん拠点病院看護部会

相互視察からの学び

神奈川県立こども医療センターへの訪問



地方独立行政法人埼玉県立病院機構
埼玉県立小児医療センター 看護部
松廣 香織 福地 麻貴子 石井玲子



マスコット@埼玉県立小児医療センター

交流視察の目的

他施設にて小児がん看護の実際を学ぶことにより、
小児がん看護の質の向上を図る。

- 神奈川県立こども医療センターへの見学を通して、
当センターでの看護活動に示唆を得る -



視察方法

- ・ 2024年10月21日(月) 10時～15時
- ・ 血液腫瘍科関連の管理者2名と主任 1 名で訪問
- ・ 神奈川県立こども医療センター内の無菌病棟、血液腫瘍科関連の2部署、小児がん相談室、外来化学療法室等の見学
- ・ 事前に見学の希望場所や質問等を送り、各施設その要望に合わせた見学ルート、説明者の選定を実施



結果

	神奈川子ども	埼玉小児
施設的环境	6階建ての建物/ 駅から公共交通機関を利用 6階に庭園あり。入院患者は許可制で利用可	13階建て/ 駅から徒歩 病室から緑が見える環境。 基本的には院外に出ることはできない。
血液腫瘍科関連の病棟の構成	3部署 2部署:内科系病棟 (血液腫瘍科、神経科等含む) 発達段階で入院先を決定 1部署:無菌病棟	2部署 1部署:内科系混合病棟 (血液腫瘍科、代謝内分泌科) 1部署:無菌病棟 (血液腫瘍科単科)
患者サービス	<ul style="list-style-type: none">・ 自動でお茶やお水を提供・ 持ち込み食は自由 プレイルーム内の冷蔵庫で家族が管理・ 外来の中央に患者用図書館があり。ピアサポーターが対応・ 検査時のディストラクションは、YouTube等の動画配信を利用	<ul style="list-style-type: none">・ お茶やお水は看護師がその都度提供・ 持ち込み食は一定の条件あり・ 患者図書は外来の中央とは離れた所にあり、自由に閲覧。・ 検査時のディストラクションは、スマイルタッチを利用



結果

	神奈川子ども	埼玉小児
看護体制	PNSを導入 ロング日勤と通常の日勤を 半数ずつ配置 リーダーの他にコーディネーターを1名配置 スタッフに処置を割り振っている	チームナーシング、プライマリナーシングを導入、一部ペアで勤務 リーダーが一部処置を担う
クリニカルパス導入内容	骨髄穿刺や輸血などの日帰り入院	骨髄穿刺や輸血、静脈鎮静下での画像検査、メソトレキセート大量投与等
薬剤師との連携	介入なし	レジメン確認などで一部介入
教育体制	クリニカルラダー KCMC小児看護エキスパートナースコース 小児がん関連の研修参加フォーラムに基づいたキャリア支援	クリニカルラダー 特定行為研修 各部署で役割やキャリアに応じて研修参加計画を立案



結果

	神奈川子ども	埼玉小児
学校	横浜南特別支援学校 転学時に学習形態（登校または床上学習）か決定	けやき特別支援学校 子どもの治療や体調に応じて、学習形態の選択が日々可能 高校生の教育支援を実施
AYA対応	プレイルームの一画に学習室がある 映画観賞会等、AYA対象のイベントを栄養科等と開催	AYAルームが1室あり、時間内であれば自由に利用できる AYA対象のイベントは今年度1回開催(初めて)
外来化学療法	リクライニングベッドと高柵ベッドを配置 どの年齢でも対応	学童ベッドを配置 基本的には学童期以上の子どもが対象、家族の付き添いが必要
フォローアップ 外来 LTFU外来	相談支援センター看護師が対応 LTFU外来は血液腫瘍科関連の3部署のスタッフが交代で対応(毎週1回)	外来看護師が対応 LTFU外来は無菌病棟看護師と外来看護師が対応(月3回)



結果

	神奈川子ども	埼玉小児
小児がん相談支援	相談支援センター1名が対応	入退院支援センター退院支援看護師2名（部署担当者）が対応
看取りに関連した活動	<ul style="list-style-type: none">・在宅での輸血が実施可能な訪問診療がほとんどなく、在宅看取りは難しいケースが多い。・デスカンファレンスをプライマリナーズが企画	<ul style="list-style-type: none">・地域によっては、在宅での輸血実施可能な訪問診療があり、在宅での看取りも年々増加・デスカンファレンスを計画的に実施していない
その他	<ul style="list-style-type: none">・ファシリティドッグが勤務・HPS1名在住・保育士1～2名配置	<ul style="list-style-type: none">・セラピードッグの定期的な訪問的であり・CLSが2名在住・保育士2名配置（血液腫瘍科関連部署）



学びと今後の課題

- **子どもの療養環境の整備**
 - ・入院中でも子どもや家族が**リフレッシュできる環境**の整備
 - AYA世代へのイベント 栄養科との協働
 - 院外に出てリフレッシュできる環境の提供
 - ・入院中の**患者の療養生活を支える支援**の提供
 - 外来に設置された患者用の図書コーナー
 - ピアサポーターが図書の管理も担い、ピアサポーターの支援が受けやすい環境
 - 検査時のディストラクションの工夫



学びと今後の課題

- **小児がん関連の看護師の育成**
 - ・ 小児がんの**知識獲得に向けた学習環境**の提供
 - 勉強会動画をYouTubeで限定配信
 - ・ 院内のクリニカルラダーと連動した**小児がん関連の研修や資格取得の支援**
 - 自分のキャリアを見据えた研修受講や資格取得
 - LTFU外来を3部署の病棟看護師が実施
 - ・ 小児がんの知識を維持できる**ローテーション**
 - 小児がんの知識を維持しながら、発達段階の違う子どもや在宅呼吸器の子どもの支援も学習



まとめ

- 他施設の見学を通して、自施設の良さにも気づくことができた。
→ 「良さ」をスタッフへフィードバックすることで、自施設での活動に対するやりがいにつながる。
- 同規模の施設見学を通じた学びは、自施設での活動のイメージが図りやすく、取り入れやすい。
- 今後、現場での看護実践のシャドー等を通して、より具体的な看護実践レベルでの看護の共有を図りたい。



第14回 小児がん拠点病院看護部会

交流視察報告

～埼玉県立小児医療センターの 視察を通しての学び～

2025年1月23日

地方独立行政法人神奈川県立病院機構

神奈川県立こども医療センター

看護局 曾我輝之

交流視察について



<目的>

他施設にて小児がん看護の実際を学ぶことにより、小児がん看護の質の向上を図る

<視察日程>

- 日時: 2024年10月31日(木) 10時～15時
- 場所: 埼玉県立小児医療センター
- 視察者: 3名(看護科長1名、主任看護師2名)

※当院では10月21日に視察を受け入れました

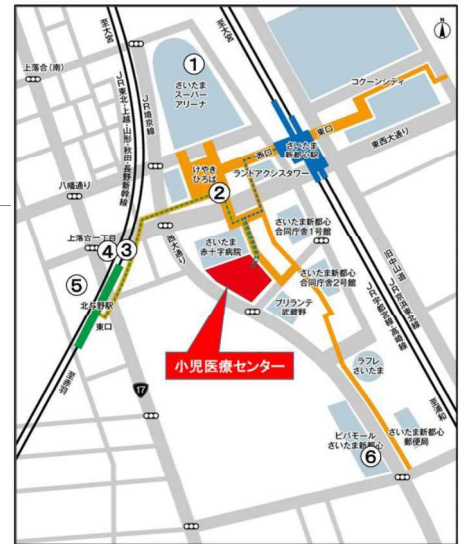
埼玉県立小児医療センター 病院概要

＜交通アクセス＞

- 電車：JRさいたま新都心駅から約5分
- 車：首都高速「新都心IC」「新都心西IC」から5分

＜施設概要＞

- 2016(平成28)年に現在の場所へ新築移転
- 埼玉県内で唯一となる小児医療専門の第三次医療施設

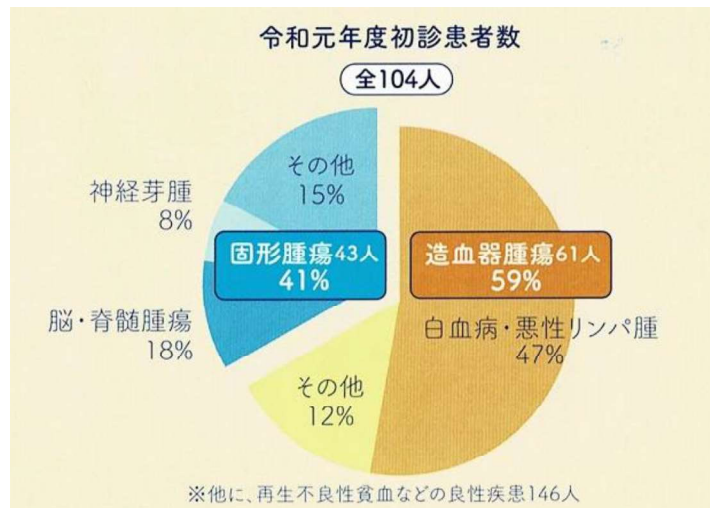


フロア案内 Floor Map



小児がん拠点病院の機能向上

- 28床の無菌病棟を新設
(無菌4床、準無菌4床)
- 小児がん相談支援センター
- 小児感染症への対応
(個室を多く配置)



埼玉県立小児医療センター「病院のご案内」より

視察部署

- 10A病棟: 血液腫瘍科、28床(無菌4床、準無菌4床あり)
- 11B病棟: 血液腫瘍科・代謝内分泌科(長期治療が対象)
- 入退院支援センター、中央処置室・化学療法室、売店...

病棟視察を通しての学び(1)

- 病室の配置の工夫
個室を多く配置、4人床も広々
- 無菌病棟での面会者対応
24時間面会可能
ガウン、スリッパの廃止
- プレイルームでの感染対策
同じ病室ごとで時間枠を設けて使用



病棟視察を通しての学び(2)

- AYA世代の患者支援
AYA支援チームの活動
- 継続看護・退院支援
病棟看護師を外来へ毎日派遣、退院支援看護師の病棟常駐
- 病棟での抗がん剤の管理・投与方法
3m一体型ルートの採用、注射箋とプロトコルを併せて確認
- 身体拘束最少化の取り組み
小児用高柵ベッドの最少化、離床センサーやベビーモニターの活用

ヒアリングを通しての学び

- 多職種カンファレンスの充実
 - 多職種カンファレンス(月1回、30分)
医師、看護師、PT、OT、MSW、心理士、CLS・・・
 - 医療安全カンファレンス(月1回、10A・11B病棟の合同開催)
医師、看護師(安全委員)で実施→病棟ごとの違いをなくすため
- 売店の機能充実
診療材料の払い出しを売店で行う
同じものを自費で追加購入も可能

まとめ

- 他施設を実際に見学する機会は限られるため、とても貴重な学びを得ることができた
- 逆に自施設を見てもらうことで、自施設の良さにも気づくこともできた
- 交流視察を通して、取り入れたい内容が多く得られたので、スタッフで共有して取り組んでいきたい

小児がん拠点病院看護部会交流視察

東北大学病院 小児医療センター 青木亜紀



京都大学医学部附属病院

2024年10月18日



目的・目標

目的

他施設にて小児がん看護の実際を学ぶことにより、小児がん看護の質の向上を図る

目標

1. 京都大学医学部附属病院の小児がん拠点病院の運営やプロトコルについて学ぶ
2. 京都大学医学部附属病院で実施されている連携病院のアプローチの方法を学ぶ
3. 専門知識とスキルを継続的に向上させるために医療スタッフの教育・トレーニング方法について学ぶ
4. 家族が関わる医療的・心理的な課題に対し、提供している支援を学ぶ
5. 地域の小児がん患者とその家族に対し、精神的・社会的な支援の提供を学ぶ



LTFU外来：同種移植後の患者（自家移植は対象外）
LTFU担当看護師3名

ボランティア：ここにこトマト（数回/月）
マクドナルドハーフフルカート（1回/2ヶ月）
ホスピタルクラウン（1回/2ヶ月）
京都大学学生による学習支援

小児がん拠点病院看護研修

がん相談支援センター

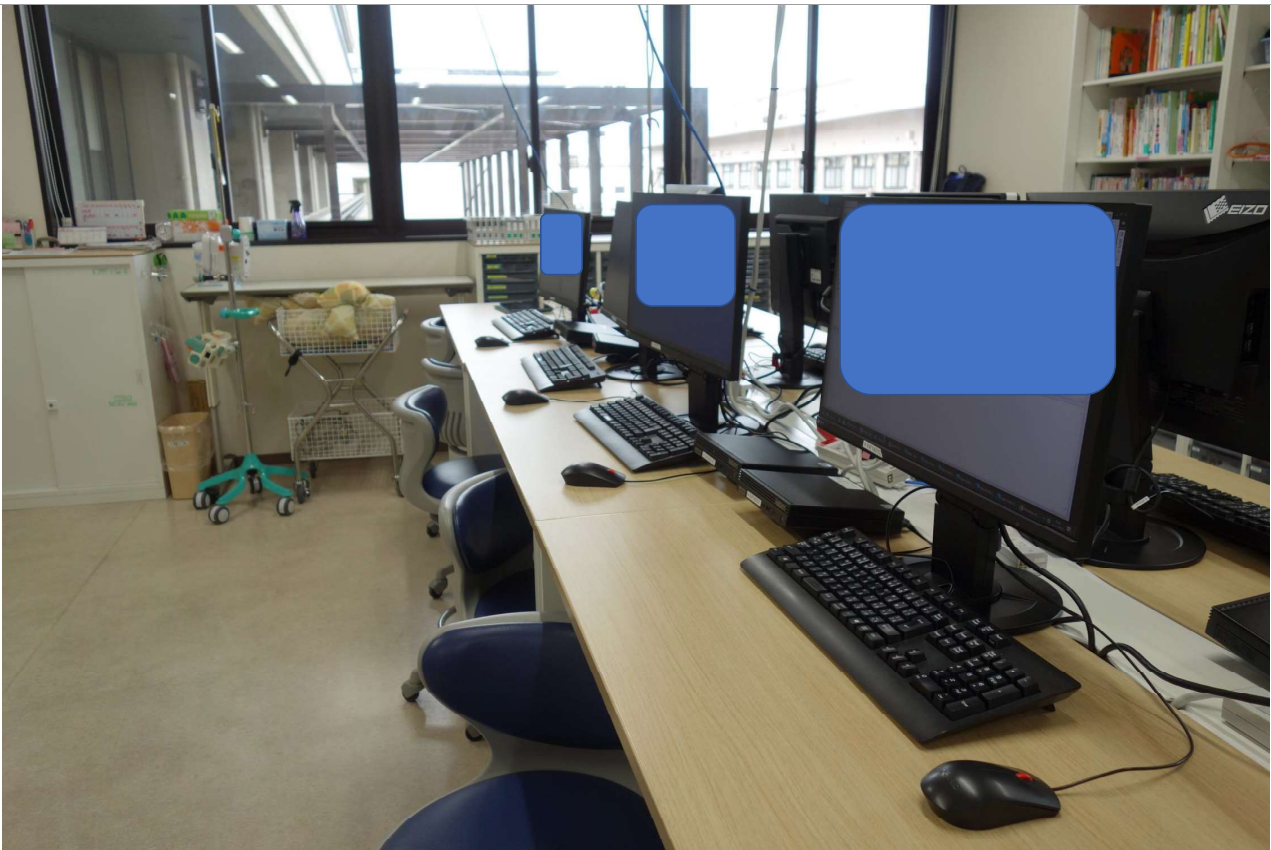
交流サロン

患者会

移行期支援







自施設の改善につなげる具体的な要素

- ★医療チームの連携強化
- ★患者中心のアプローチ
- ★教育・研修システムの充実

御礼

お忙しい中、ご対応いただきました、
京都大学医学部付属病院の皆様に対し、
心より御礼申し上げます

ご清聴ありがとうございました

